

提言

新聞料金がまた値上げになつた。しかも今回は一挙に大幅な値上げで読者を驚かせている。かたがちはともかく、実際に各新聞社が一斉に値上げするのだから、庶民感覚からすれば独禁法違反は明らかだが、例によって紙面にはそのような疑義すらあらわれない。

物価上昇の折柄、さすがに今回の値上げについては投書も多いうたから、投書のなかにはそのような疑義を表明したものもあるはずだが、紙面には出さないのであろう。

それにしても、値上げ理由を説くと、各社とも苦心の創作のあとが見えて面白い。日頃、政府の物価政策をたたき、公共料金の値上げに反旗し、大企業の大横暴に怒って庶民の代表のような顔付でいる以上、さすがに気がひけたものと思われる。もっとも、値上げせざるを得ないのは、政府のインフレ政策のためであるといわんばかりの論理のスリカエをおこなっているものもあつたが、こゝ

あとが見えて面白い。日頃、政府の物価政策をたたき、公共料金の値上げに反旗し、大企業の大横暴に怒って庶民の代表のような顔付でいる以上、さすがに気がひけたものと思われる。もっとも、値上げせざるを得ないのは、政府のインフレ政策のためであるといわんばかりの論理のスリカエをおこなっているものもあつたが、こゝ

で値上げしないと人件費高騰の折柄、わが国の新聞制度の土台である宅配制度がくずれてしまつたので、読者の皆さん、是非協力を下さい、といった点が各社とも共通していた。

だが、この点にかんしていえば、宅配制度がくずれると困る社とも共通していた。

のほ読者の側ではなく、新聞社の側であることは周知のところであり、TVの普及やたとえば『夕刊フジ』の成功に見られるように、時代は大きく変わつていのである。ただ、読者は一般にそれほど自覚的・能動的ではなから、宅配制度があればそ

れに順応するのであつて、このことこそが二社数百万部の発行部数という特殊日本の肥田新開の存在を許し、社会権力としてのマスコミの横暴を許しているのである。

新聞料金の値上げ通告があつてから、物価問題にたいする紙道や中国報道に見られるよう

に、誤った観測ばかりしていつか少しは変わるかと思つていたら、ある新聞は、値上げ通告の日の夕刊に、おとふがまたも値上げ」と教段ぬきで大きく記事にして例のごときインフレ退治・物価抑制を叫んでいた。まったく身勝手なものではある。

これは、われわれかよわき読者のやつかみでいうのではなから、知る人の認める事実なのである。

この点にかんしていえば、宅配制度がくずれると困る社とも共通していた。

マスコミを厳しく選別する眼を大衆化せよ

マスコミを厳しく選別する眼を大衆化せよ